

教育長室だより

第 32 号

2022.2.28

寒さの最も厳しい季節を迎えています。本県でも変異株の広がりが大きくなり、幼児・児童の感染が拡大しています。重症化が少ないのが救いですが、陽性者が出た場合には学校・園の活動に大きく影響します。今後当分は厳重な対策を維持しなくてはなりません。



さて、コロナ禍の中で人権の問題がまたしばしば取り上げられています。”コロナ差別”、“同調圧力”などの言葉が人権を脅かす言葉として問題視されています。

ところで、このところのニュースでコロナ関連以外で最も人権や人間の尊厳を脅かすものとして「戦争」が大きな問題となっています。ニュースはウクライナへのロシアによる「軍事行動」すなわち「侵攻」です。軍隊による攻撃がどれほどの被害を与えるかが、断片的なニュース映像からもリアルに伝わります。



軍事侵攻のニュース映像を見ていて、今回初めて感じたことがあります。それは、“戦争と経済”ということです。遠く日本の物価にも影響するというようなことが取りざたされますが、それもさることながら今回感じたことは少し別のことです。



ニュース映像には戦車が行軍する様子とか、ミサイルが発射される映像がたびたび流れます。それによる被害の様子には本当に胸が痛みます。同時にあの戦車やミサイルや戦闘機はいったいいくらお金がかかっているのだろうと思ったのです。

コロナ禍の中で、子どもたちと家族、独居老人、一人親家庭など生活苦にあえぐ人々が世界中にどれくらいいるのだろうと。



あの戦車は1台いくらするのかなあ、戦闘機を1回飛ばすのに、1発のミサイルを発射するのにどれくらいの費用がかかるのだろう、などということを考えてしまいました。

そういう話ではないだろうという声が聞こえてきます。しかし、生活に苦しむいわゆる社会的弱者への支援にたくさんの税金を注ぎ込む必要のある現状があります。どの国も多額の税金を注ぎ込んで、なおまだ十分でないとの声が上がっています。

一方で数千億円？、数兆円？を費やして行われるのが軍事行動です。兵器は人を殺傷するものですから兵器にかかるお金はすべて人を殺すための費用です。見ていて腹が立ってくるのはわたしだけでしょうか。

行政の世界は政策と予算を考えることが中心です。だれがどんな目的で人を殺す兵器のために莫大な予算を注ぎ込もうというのでしょうか。

○

青臭い意見です。ことはそんなに単純でないことはわかっています。為政者は歴史や地域の情勢などの観点からさまざまな“大義”をもって意思決定しています。しかし、それでも、戦車1台、戦闘機1機にかかるお金が福祉や教育に回ったら…と考えてしまいます。

○

人権など取るに足らないものとなるのが戦争です。

ロシア国内でもたくさんの反戦デモが行われていると聞きます。戦乱や災害がもたらす惨禍について我がことのように理解できる市民が世界中にいます。これは人類の長い教育という活動に育まれたものと信じたいと思います。それでも戦争は起こる。

まだまだ教育は十分でないと考えざるを得ません。

○

人権教育がどれほど大切なものを様々な機会に思い知らされます。戦争は現代における最も強烈で最もわかりやすい人権侵害です。自然災害と違うところは、人の意思によってもたらされるところです。

少なくとも戦争＝悪だということはこれからの教育でも子どもたちの心にしみこませるべきだと思います。同時に人権尊重は何より大切な価値であることも繰り返し刷り込んでいく必要があると思います。

戦争の映像を見ながら、わたしたち大人が子どもに与えるべき大切なものをあらためて意識せざるを得ません。